

台風シーズンの到来を前に 地域防災を担う団体が集結し、水防演習を実施しました



▲袋に土を入れて土のうを作成



▲作った土のうの積み方を学ぶ



▲自身の安全を確保するためのロープワーク演習

自分の身は自分で守る

町主催の川根本町水防演習が、5月11日に高郷河川敷で開催され、川根本町消防団、地域自主防災委員及び会長、女性防災リーダーの計130人が参加しました。この演習は、令和4年台風第15号災害を教訓に、自主防災力を図ることを目的として開催されました。

講師には、水防についての歴史が長い静岡市水防団の安本・佃副団長、内田本部長を講師に招き、土のうの作成方法や作成した土のうを活用した積み土のう工法、災害時に役立つロープワークを学びました。

近年、集中豪雨による被害が頻発しており、短時間で河川が増水し、堤防が決壊して甚大な被害が発生する事例が増えてきています。

洪水時の被害を最小限にするためには、平時から被害リスクを認識したうえで、氾濫時の危険箇所や避難場所についての正確な情報を知ることが

何よりも重要です。

皆さんは、水害から住居を守るため普段から対策を行っていますか。台風や集中豪雨による被害を最小限に抑えるためには、非常持ち出し品の準備はもちろんのこと、住居や家財が被害に遭わないための備えも必要です。